

～ 株式投資で勝つ方法 ～ - 経済動向編 -

livedoor VS フジテレビに勝手に注目！（全 13 回）

2005/05/20 太田寿一

第 5 回 崖っぷちの会社

今回から少し、ライブドアをはじめとする日本型ベンチャーについてと、IPO（株式公開）に触れていきたいと思います。まずはライブドアについてです。

株式会社ライブドアは、1996 年 4 月に「有限会社オン・ザ・エッジ」としてスタートしました。社員・従業員・アルバイトは全員で 6 人で、当時の堀江氏は 23 歳、東大在学中の起業でした。この時の資本金 600 万円は、当時付き合っていた彼女の父親から都合してもらったそうです（この時の彼女は、上場前に意見が物別れになったため同社を退社、それにあたって堀江氏は、彼女の持つ株式を 5 億円で買い取ったそうです）。その後堀江氏は大学を中退し、経営に専念しました。また当時は堀江氏自身も、営業をする傍ら、プログラマーとしてウェブ制作とシステム開発を行っていたそうです。

押しの強さとしつこい営業、そして何より当時は IT 革命の真っ只中であったため、会社は順調に成長していきました。引き受けた仕事の中には、藤田晋率いるサイバーエージェントと共同で、クリック保証型システムのインターネット広告サイバークリックや、メルマガの発行を行うクリックインカム（現 melma!）の立ち上げも含まれていました。有限会社から株式会社への転換、増資の繰り返し、そして 2000 年 4 月、設立からわずか 4 年という早さでオン・ザ・エッジは東証マザーズに上場を果たしたのです。

しかし現在のライブドアを作り上げたのは堀江氏というよりも、むしろ同社取締役兼 CFO（最高財務責任者）の宮内亮治氏と言えるでしょう。宮内氏は税理士で、当初はオン・ザ・エッジの顧問弁護士でした（堀江氏がパソコンで税理士を募集したときに、応募したのが宮内氏でした）。ですが、彼は堀江氏に「会社に内部留保がありますので、デットエクイティスワップ（債務の株式化）で株式会社にしましょう」と持ちかけて株式会社化や増資を行い、それで規模が大きくなってくると、「株式会社にしたからには上場しなくちゃいけませんよ」といって、同社に入社して CFO に就任、株式公開の準備を進めていったのです。堀江氏は会社をつくることには興味はあったのですが、上場については全く知りませんでした。ですが社外で色々な人たちと接していくことで、彼は社長として成長していったのです。

上場後のオン・ザ・エッジはリナックススペースの OS「Lindows OS 日本語版」の開発販売を行ったり、イーファイナンス事業を行うライブドア証券を立ち上げたり、インターネットプロバイダのライブドアや会計ソフトを手掛ける弥生会計など企業買収を行っていきます（その中にはイーバンク銀行の買収失敗もあります）。そして 2003 年には会社名を㈱

オン・ザ・エッジからエッジ(株)に、2004年にはエッジ(株)から(株)ライブドアに変更、そして同社の名前が世に知れ渡る時がやってきたのです。

参考文献 『100億稼ぐ仕事術』(2003)

堀江貴文(著) ソフトバンクパブリッシング

『稼ぐが勝ち』(2004)

堀江貴文(著) 光文社

『堀江貴文のカンタン!儲かる会社の作り方』(2004)

堀江貴文(著) ソフトバンクパブリッシング